

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通 4-22-25 兵庫人権会館 2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281
e-mail: blrhyg@extra.ocn.ne.jp URL: <http://blrhyg.org/>



所長の諏訪山だより

そんなに日本はスゴイのか

ケビン・ドーク『日本人が気付かない世界一素晴らしい国・日本』（ワック出版局）、井上和彦『日本が戦ってくれて感謝しています - アジアが賞賛する日本とあの戦争』（産経新聞社）、ルース・ジャーマン・白石『やっぱりすごいよ、日本人』（あさ出版）。こんな本が書店の棚に並ぶ。書籍だけではない。現在や過去の日本を過度に礼賛するテレビ番組も数多い。『世界が驚いたニッポン！ スゴ〜イデスネ!! 視察団』（テレビ朝日）、『メイドイン JAPAN 日本を誇りに思える SP』（TBS）、『見たか日本の底力 SP』（TBS）など、連日のように、日本を持ち上げ、声高に称賛する番組が放映されている。たしかに褒められることは、悪い気はしない。しかし、捏造された称賛は、その場限りの心地よさと根拠のない自信をもたらすだけで、当人のためにはならないことはいうまでもない。イエスマンで固めた安倍「お友達」内閣に向上が期待できないのと同じことだ。

いつからこんな「愛国ポルノ」が出てきたのか。バブルが弾け、仕事人間のアイデンティティが揺らぎ始めたとき、多くの男たちは過去の「男の栄光」にすがろうとした。その典型がNHKの人気番組『プロジェクト X』であり、新しい歴史教科書をつくる会の動きであった。それ以降、日本を一方的に称賛する書籍や番組があとを絶たない。こうした一方的な称賛は、他を貶めることでより効果を増す。つまり、嫌韓反中の横行である。韓国や中国を見下し、揶揄することによって、日本を持ち上げるのだ。

でも、そんなに日本はスゴイのか。自らの手ではまったく戦争責任を追及できず、責任者を処分できなかった日本。思想犯を拷問し、虐殺した特高警察官が何の責任も問われず、敗戦後、さまざまな要職に就き、豊かな老後を送った日本。アジア諸国を侵略し、多大な被害をもたらした過去に向き合おうとしない日本。いまでもそうだ。唯一の戦争被爆国でありながら、核大国アメリカのご機嫌を伺い、「核兵器禁止条約」の交渉会議への不参加を宣言した日本。政府の原発再稼働方針に沿うよう、大津地裁の原発再稼働差し止め仮処分決定を取り消した大阪高裁。首相夫人や首相官邸をおもんぱかって、国有地を大幅値引きした財務官僚。弱者のほうを向くのではなく、常に強いもののほうを向き、忖度する日本の諸組織。こうした忖度の連鎖が何をもたらしてきたのか。それを注視し、批判していかなければ、捏造された「スゴイ日本」が独り歩きを続けるだけだ。

所長 石元清英

編：ひょうご部落解放・人権研究所 発行：解放出版社

『はじめてみよう！ これからの部落問題学習プログラム』

被差別部落の「いま」をとらえ、血筋幻想にとらわれず、誤解や偏見を批判できる力を獲得することをめざした新しい部落問題学習のプログラムを具体的に示す。高校ではアクティブ・ラーニングを用いた指導案を紹介する。

◆目次

第1部 部落問題学習の現状と課題

I なぜ部落問題を教えるのか(石元清英)

これまでの同和教育は何をしてきたのか／なぜ部落問題を教えるのか

II 部落問題の何を伝えるのか(石元清英)

部落とは何か、部落民とは誰なのか／部落の多様性／高度経済成長期における就労の変化／1990年代以降の新たな問題の顕在化／差別事象の現状

III 部落の歴史を学ぶ、部落の歴史から学ぶ(宮前千雅子)

なぜ、部落の歴史を学ぶのか？／中世／近世／近現代

第2部 小学校、中学校、高校のプログラム

IV 小学校 同和教育を核にした学級づくり(坂本研二)

小学校編を執筆するにあたって／同和教育発の学級づくり／小学校における部落問題学習の進め方

V 中学校 社会科の教科書を使って(北谷錦也)

中学校現場の悩み—問題意識はあるのだが…／中学校の歴史教科書を使った「人権の歴史」—『新編 新しい社会 歴史』(東京書籍、平成28年度、中学校)を使って／歴史を学ぶのは？—今を考え、未来を語ろう

VI 高校 アクティブ・ラーニングの手法を用いた部落問題学習の進め方(井上浩義)

高校現場がかかえる問題点／参加型(参加体験型)学習の広がりは何だったのか／アクティブ・ラーニング型学習の必要性／アクティブ・ラーニングを用いた部落問題学習—兵庫県立加古川東高校における実践例をもとに／教員も能動的学びを

ほか、コラム 16本



B5判 並製 169頁 定価 2,000円＋税
ISBN978-4-7592-2164-0 C0037

お詫び

機関誌『ひょうご部落解放』の発行が大幅に遅れており、関係各位には大変ご迷惑をおかけしております。心よりお詫び申し上げます。2016年9月25日付の162号は、半年以上お待たせすることになりますが、本年5月末には発行する所存です。恐縮ではございますが、いましばらくお待ちくださいますよう、お願い申し上げます。



『ビジュアル版 芝浦屠場 80年史 1936-2016 幕末・明治期より、東京におけると場の歴史』

芝浦屠場 80年史編集制作委員会編刊、2016年11月 非売品

本書は労作である。東京の芝浦屠場の歴史を大量の写真と図表、文章で紹介している。正直なところ解放同盟兵庫県連事務局よりこの本を頂戴したときの第一印象は、「資料としては有用でも、つまらなそうだなあ」というものであった。公的な施設の××年史の類で面白いものは稀だからだ。しかし、それは間違いであった。貴重で興味深い証言もたくさん掲載されており、本当に面白い。

本書は全7章にデータ編、19のコラムからなる。第1～3、5～6章で、明治大正の芝浦屠場の前史から、その設立と発展、差別問題を含む様々な問題、労働運動等、1990年代に至るまでのことが述べられている。第4章は1955年と1970年と2000年以降のそれぞれの屠畜の様子が豊富な写真と解説で紹介されており、技術の変遷がよくわかる。第7章では現在の様子や人権啓発活動の紹介に加えて、2本の座談会が掲載されている。コラムは様々なテーマを扱っているが、なかでも全国の屠場で技術指導を行った故・海老沢子之吉氏の証言に興味をひかれた。屠畜技術に関して具体的に述べられている。

本書は部落解放同盟東京都連合会品川支部、全芝浦屠場労働組合等の関係者により編まれた。元々は本を作るのではなく、屠場のすぐ近くの品川駅前に「食肉文化館」を作ろうとしたそうだ。この計画は、バブル崩壊後の不況で頓挫してしまうが、何かを残していかなければという強い使命感のもと、2000年代前半に「芝浦屠場70年史」が構想される。ところが資料収集が難航し、中断。仕切り直して、80年史とすることにし、再開したのが2014年のことであった。

芝浦市場の設置者である東京都が作成していたら、これほどの内容になったとは思えない。芝浦屠場で働く人たちやその関係者の強い思いがなければ、本書は生まれなかったであろう。

※本書をご希望の方は研究所までご連絡ください。

(ka)



● 2017年度人権歴史マップ連続セミナー第1回

「西誓寺文書から見る部落民衆の姿」

■講師：植村満さん（部落史研究会ささやま事務局長）

■日時：2017年5月20日（土）14：00～16：00

■会場：兵庫県立のじぎく会館（ふれあいルーム）

■参加資料代：【一般】800円【会員・定期購読・学生】500円

篠山市川西の西誓寺には江戸時代からの文書や記録が残されています。その中心は1798年（寛政10）から1868年（慶応4年）まで代々の住職によって書き継がれた「日々年代記」です。現在、この西誓寺文書は、部落史研究会ささやま（2006年発足）の人たちにより解読が進められており、江戸時代の皮多村の生き活きとした暮らしの暮らしぶりが明らかになっています。

2017年度第1回の人権歴史マップ連続セミナーでは、講師に部落史研究会ささやま事務局長の植村満さんをお迎えし、西誓寺文書から近世の被差別部落の暮らしと文化についてご講演いただきます。

もとまちハートミュージアム 2017

2017年6月3日(土) >>>>>

コンサート

もとまちウキウキ

障害のある人もない人も、ともに楽しむコンサートです。

- ▶会場：1階ホール
- ▶時間：13時～16時

【出演者】

加納浩美、ないす、濱田明展、ほっとぽっと、永井忠ほか

ワークショップ

オリジナルクリップづくり

作業所の商品開発に取り組む「神戸ハンドメイドコレクション・社」。革製の飾りを貼って、オリジナルクリップをつくりましょう。

- ▶会場：1階ホール
- ▶時間：11時～16時(なくなり次第終了)

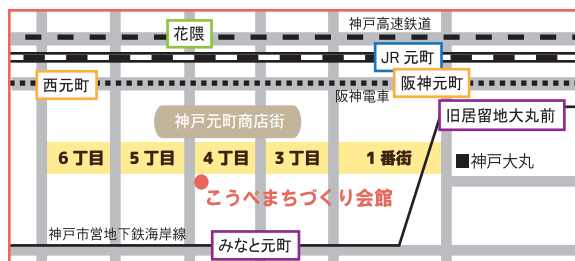
作業所製品ワゴンセール

ハートショップ

- ▶会場：1階ホール ▶時間：11時～16時

会場 こうべまちづくり会館

みなと元町駅(地下鉄海岸線)西1出口から北へ2分



ワークショップ

WAKKUN と絵を描こう

神戸で活躍するイラストレーター涌嶋克己(WAKKUN)さんとともに、自由に絵を描きましょう。

- ▶会場：2階ホール
- ▶時間：13時～16時
- ▶定員20名(事前予約も受け付けます)



涌嶋克己さん

【事前予約方法】

参加をご希望の方は、①参加者のお名前②連絡先を当研究所まで、お電話、FAX、E-mailにてご予約ください。

2017年6月2日(金)～6日(火) >>>>>>>>>>

障がい者アート作品展 ドギドギ展～生きるもの～

兵庫県内を中心に活動する障がい者・障がい児の絵画作品や版画など、個性豊かな強い存在感のある作品を展示します。

- ▶会場：地下ギャラリー ▶時間：10時～18時 ※最終日は～16時
- 【出展者】 笹谷太郎、木村篤志、勝村知子、日野成子、池本佳代



事務局から

- 思うところあり、禁煙。按じたとおり、一気に3キロ太りました。お次はダイエット。嗚～呼。(K)
- 台風の影響によるじゃがいもの不作で、ポテトチップスの販売休止・販売終了のニュース。色んな味が楽しめなくなるのはチョット残念?イヤ残念!すっごく残念!!!!!!(I)
- 若い頃、憲法学の先生に「僕らの青春時代がどれだけ暗かったか。その自分たちに、敗戦後できた日本国憲法がどれだけ輝いて見えたか」と言われたことがある。普段物静かだった先生の、厳しい表情とこの言葉を、この頃よく思い出している。(H)
- 私がお仕えしている老猫は、最近後ろ足が弱ってきたようで、あまり飛び跳ねなくなりました。しかし気力は十分で、命令は厳しいです。逞しいです。(Ka)
- 黒部立山アルペンルートに行ってきました。雷鳥には会えなかったけど、きれいな大自然に癒されました♡信州の桜は満開です☆(ひ)